

【2025年はAIエージェント元年！】

大企業のAIエージェント活用に関する実態調査

～大企業の8割が導入、9割が課題を実感～

調査実施者	テックタッチ株式会社
調査概要	大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
調査方法	IDEATECHが提供するリサーチデータマーケティング「リサピー®」の企画によるインターネット調査
調査期間	2025年3月19日～同年3月20日
有効回答	生成AIを業務で活用している大企業(従業員数1,000名以上)の会社員429名 ※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

大企業のAIエージェント活用に関する 実態調査

TOPIC 01

「AIエージェント」の認知度は**89.0%**

TOPIC 02

81.9%が、業務でAIエージェントを活用した経験あり、
活用用途は「データ分析・レポート作成」が**57.2%**で最多

TOPIC 03

約9割が、AIエージェントの活用に課題を実感、
「機密情報や個人情報の取り扱いが不安」（**55.0%**）などの声

Q1

あなたのお勤め先の業種を教えてください。
(複数回答・上位10項目を記載)



デックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=429)

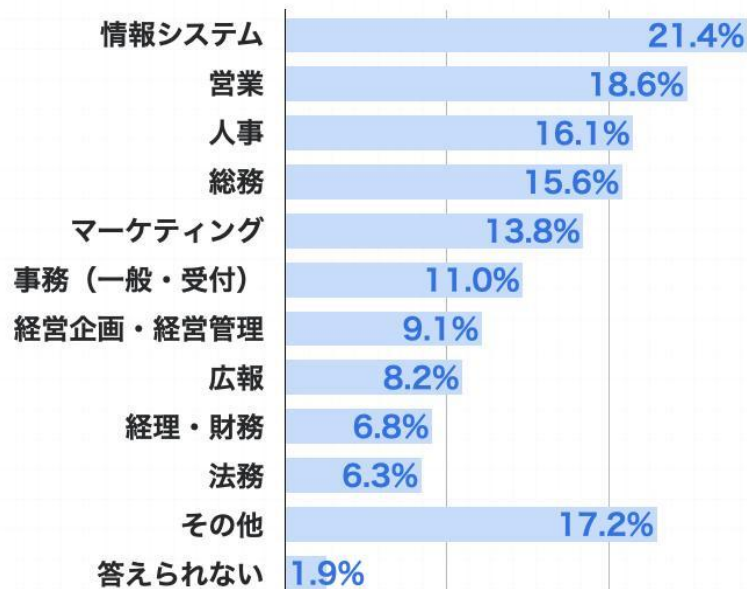
生成AIを活用している大企業の業種、「ソフトウェア・情報サービス業」が19.8%で最多

生成AIを導入している企業はソフトウェア・情報サービスの19.8%に続いて製造業が18.2%という結果でした。

割合は低いですが、様々な業種の企業が生成AI導入を進めています。

Q2

あなたの職種を教えてください。（複数回答）



テックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=429)

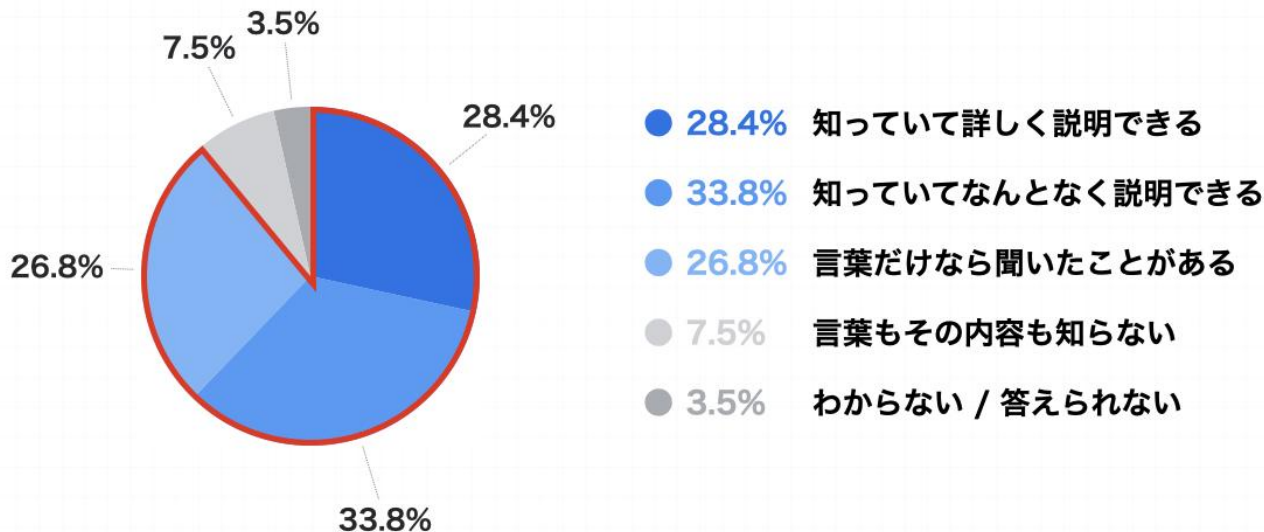
回答者の職種、
「情報システム」「営業」
「人事」など

「情報システム」が21.4%、
「営業」が18.6%、「人事」が
16.1%という結果でした。

職種問わず、生成AIの導入が
進んでいることが明らかに
なりました。

Q3

あなたは、「AIエージェント」についてご存じですか。



テックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=429)

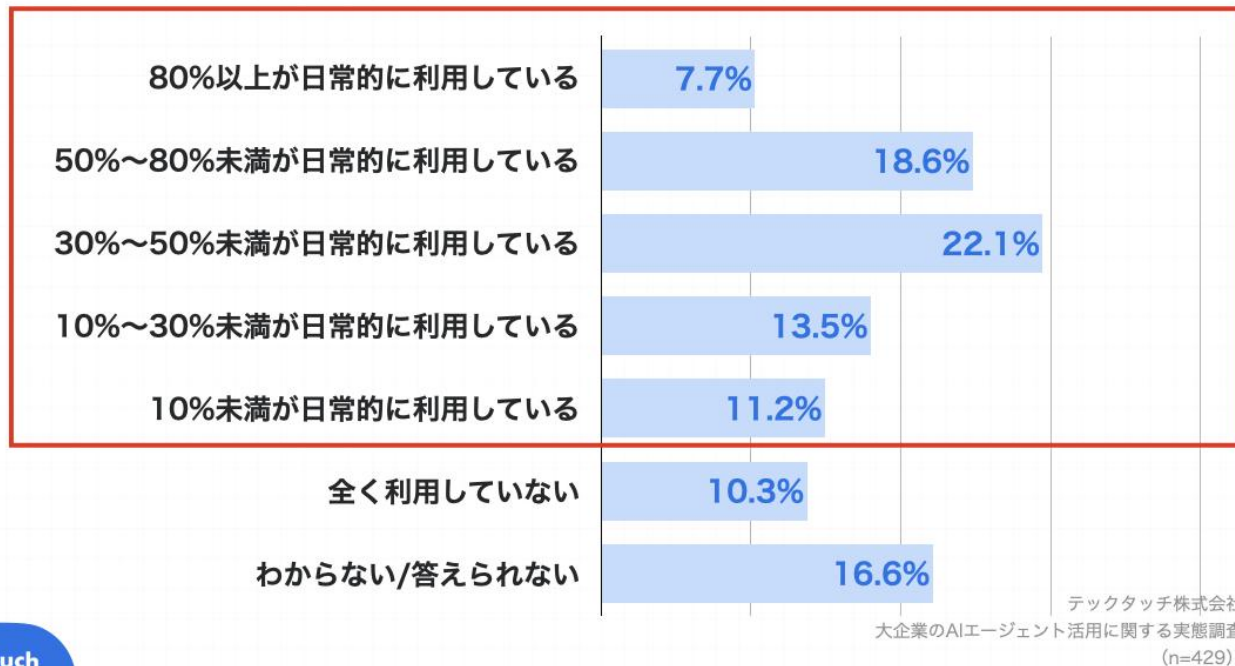
「AIエージェント」の 認知度は 89.0%

AIエージェントについて、「知っていて詳しく説明できる」が28.4%、「知っていてなんとなく説明できる」が33.8%、「言葉だけなら聞いたことがある」が26.8%という回答結果でした。

一定数の認知度があることが明らかになりました。

Q4

お勤めの会社における「AIエージェント」の浸透度合いを教えてください。



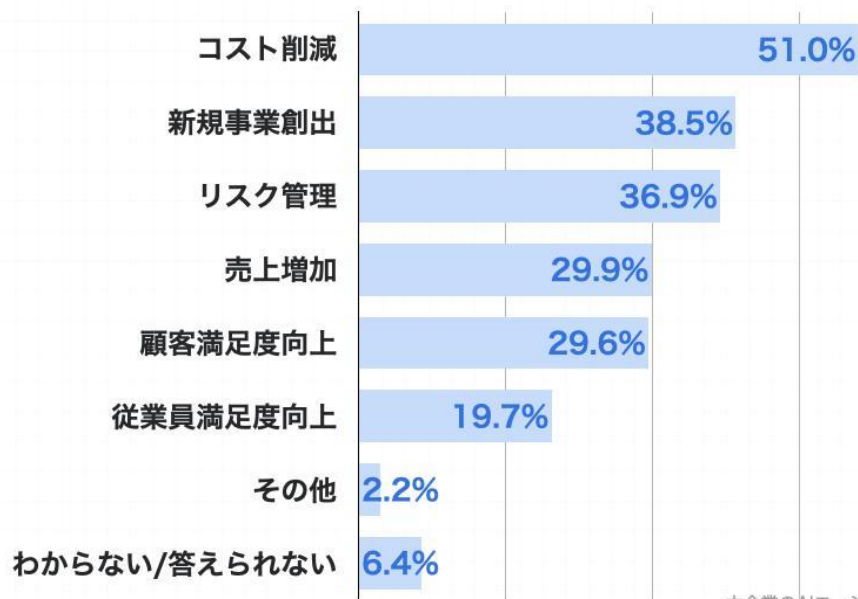
大企業の73.1%が、AIエージェントを利用

AIエージェントの浸透度に関して、「30%~50%未満が日常的に利用している」が22.1%、「50%~80%未満が日常的に利用している」が18.6%という回答となりました。

多くの大企業が日常的にAIエージェントを利用していることがわかりました。

Q5

AIエージェントを活用して、どのような経営戦略・事業戦略の策定・実行に役立てていますか。（複数回答）



テックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=314)

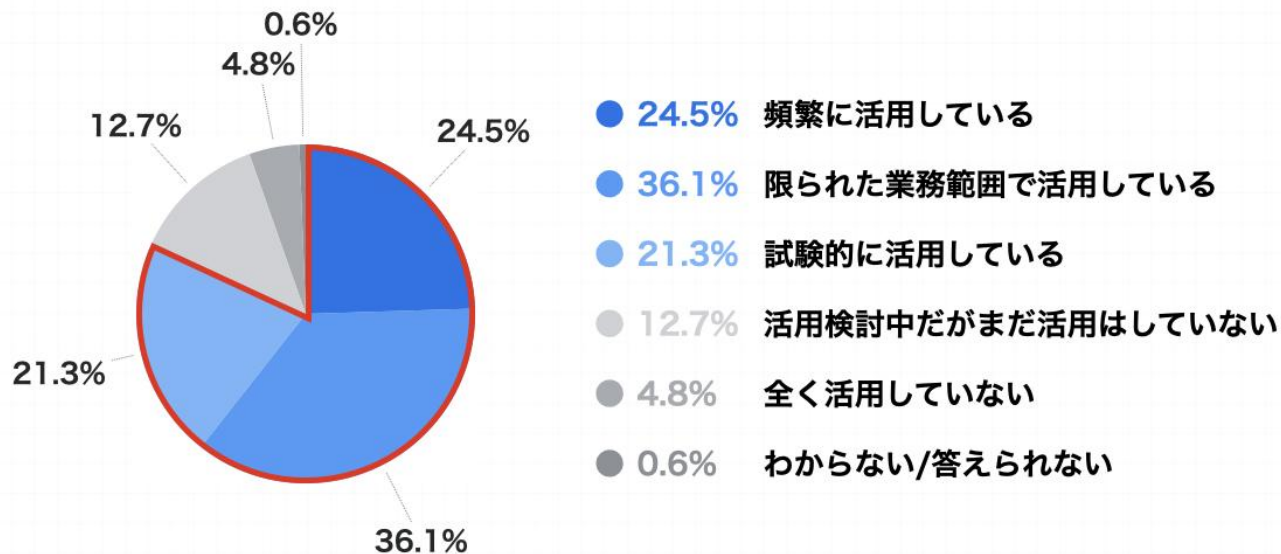
51.0%が、「コスト削減」に関する経営戦略・事業戦略の策定・実行にAIエージェントを活用

「AIエージェント」を活用した経営戦略・事業戦略の策定・実行について「コスト削減」が最多の回答でした。

経営効率化を主軸に、戦略面での期待が高まっている様子が見えてきます。

Q6

あなた自身は、業務で「AIエージェント」を活用したことがありますか。



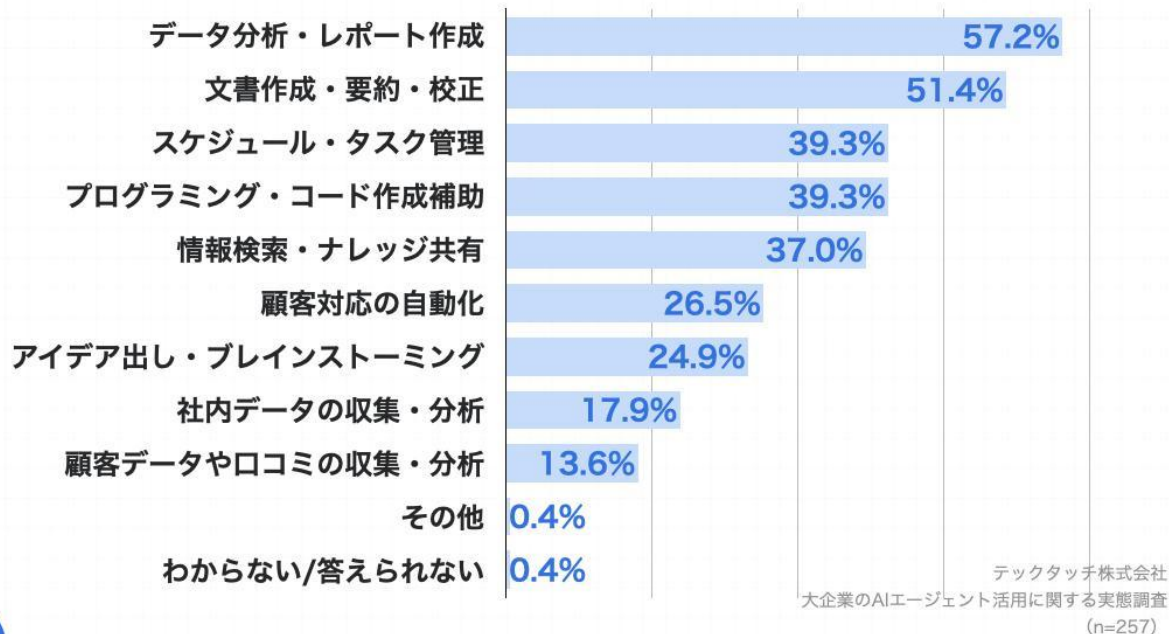
81.9%が、業務でAIエージェントを活用した経験あり

「頻繁に活用している」が24.5%、「限られた業務範囲で活用している」が36.1%、「試験的に活用している」が21.3%という回答となりました。

「限られた範囲」や「試験的な活用」も多く、まだ運用の模索段階にある企業が多いことがうかがえます。

Q7

「AIエージェント」をどのような用途で活用していますか。
(複数回答)



AIエージェントの活用用途、「データ分析・レポート作成」が57.2%で最多

AIエージェントの活用用途について、「データ分析・レポート作成(業界動向調査・市場分析含む)」が57.2%、「文書作成・要約・校正(メール・レポート・議事録・プレゼン資料など)」が51.4%でした。

この結果から、知的作業の効率化を目的に活用されていることがわかります。

調査結果

Q7で「わからない / 答えられない」以外を選択した方にお聞きます。
Q8.Q7で回答した以外に、「AIエージェント」を活用する用途があれば、自由に教えてください。(自由回答)

<自由回答・一部抜粋>

- ・マニュアル作成。
- ・苦情対応のパターン化。
- ・画像の生成。
- ・翻訳業務。
- ・システム運用の最適化を図る。
- ・複数のAIを組み合わせて、複雑なタスクを実行している。
- ・複数案を設定した顧客への提案資料において各案のメリット / デメリットを洗い出す作業の支援。

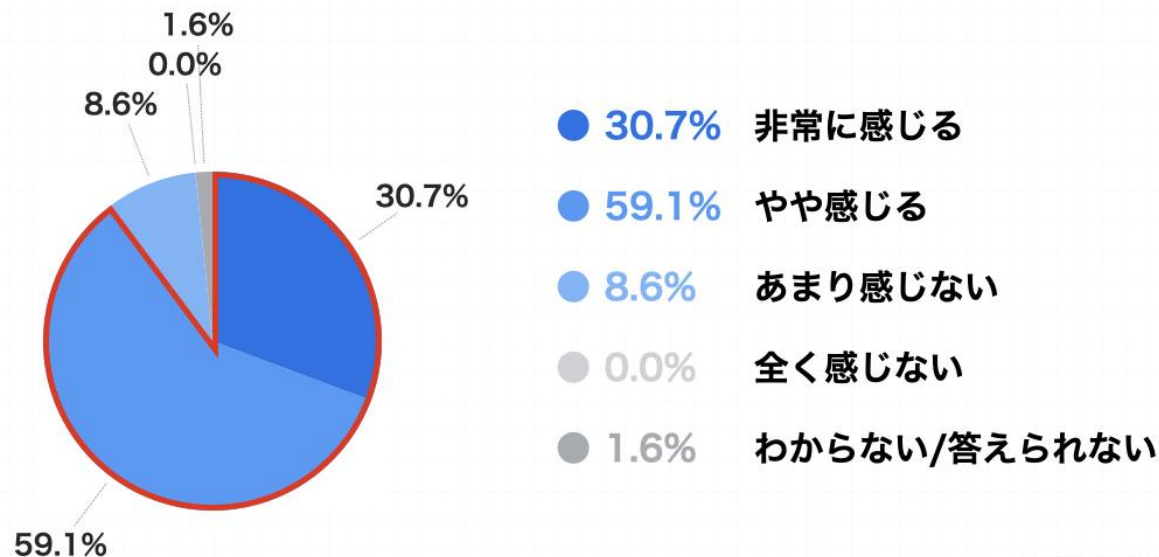
「システム運用の最適化を図る」や「複数のAIを組み合わせて、複雑なタスクを実行している」などの声も

「システム運用の最適化を図る」や「複数のAIを組み合わせて、複雑なタスクを実行している」など106の回答を得ることができました。

AIエージェントが主に「業務効率化」や「タスクの最適化」に活用されていることが伺えます。

Q9

あなたは、「AIエージェント」を活用する上で課題を感じますか。



約9割が、AI エージェントの活用に 課題を実感

AIエージェント活用の課題について、「非常に感じる」が30.7%、「やや感じる」が59.1%という結果になりました。

回答者のほとんどがAIエージェントについて課題を持ちながらも活用していることが明らかになりました。

Q10

「AIエージェント」を活用する上で、
具体的にどのような課題を感じていますか。（複数回答）



テックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=231)

課題トップ3は、「機密情報や個人情報の取り扱いが不安」「思ったような回答が得られない」「効果的な使い方・指示の出し方がわからない」

AIエージェントの活用の具体的な課題について、「機密情報や個人情報の取り扱いが不安」が55.0%、「思ったような回答が得られない」が46.3%、という回答でした。

「出力内容の正確性に不安がある」などの回答も多く、アウトプットの精度に関する課題意識が高いことが伺えます

調査結果

Q10で「わからない / 答えられない」以外を回答した方にお聞きします。

Q11. Q10で回答した以外に感じている課題があれば、自由に教えてください。

(自由回答)

＜自由回答・一部抜粋＞

- ・依存してしまうと個人のスキルが身につかない。
- ・法律が整備されていないこと。
- ・自社のものは、ファイルを読み込ませて翻訳などをさせることができない。
- ・コストパフォーマンスが測定しにくい。
- ・定型文しか答えられない。
- ・参照とするソースへの著作権等の確認とケア。
- ・データ管理の費用が高い。

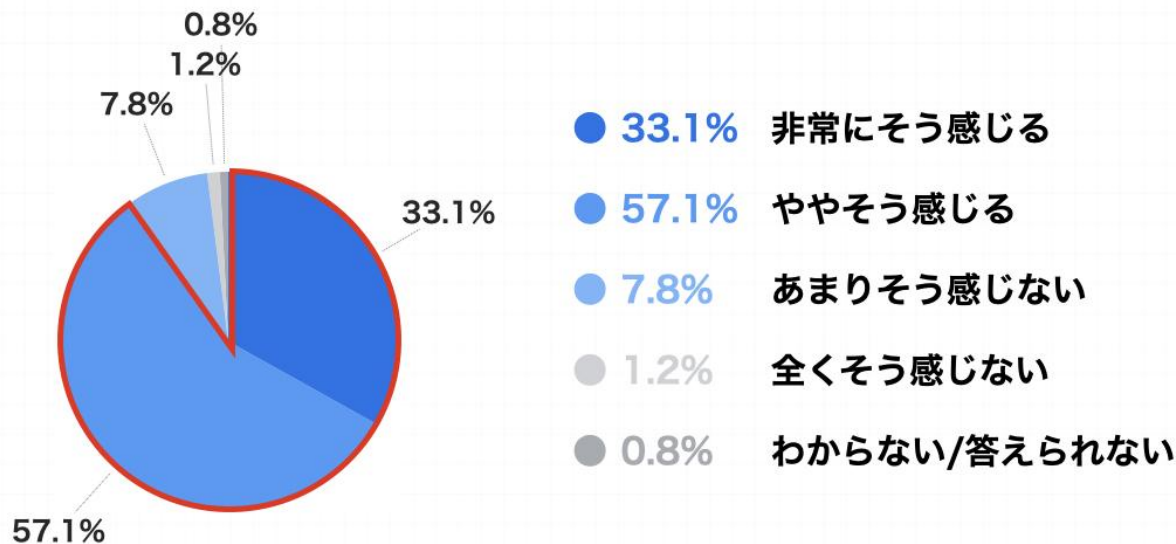
「依存してしまうと個人のスキルが身につかない」や「コストパフォーマンスが測定しにくい」などの課題も

「システム運用の最適化を図る」や「複数のAIを組み合わせて、複雑なタスクを実行している」など106の回答を得ることができました。

AI依存によるスキル低下や、コスト・法整備への懸念が挙がりました。

Q12

「AIエージェント」を活用することで、ご自身のパフォーマンスが向上できていると感じますか。



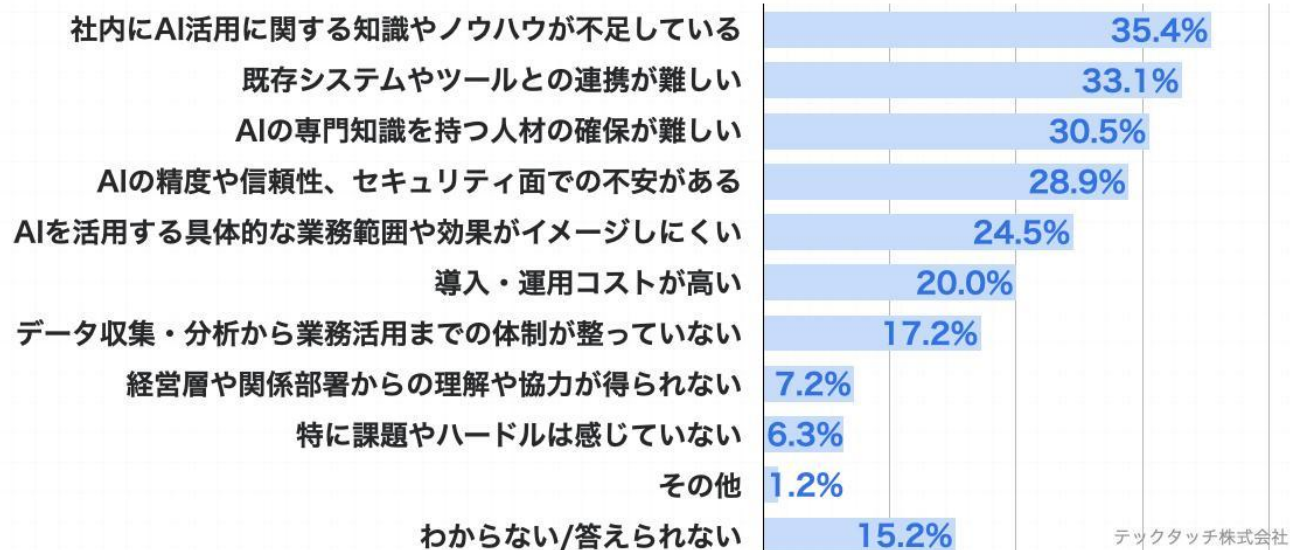
90.2%が、AIエージェントを活用することで、「自身のパフォーマンスが向上できている」と回答

AIエージェントの活用によるパフォーマンス向上について、「非常にそう感じる」が33.1%、「ややそう感じる」が57.1%という回答となりました。

AI活用が個人の業務効率向上に寄与している傾向がわかりました。

Q13

今後、業務上で「AIエージェント」を導入・活用していく/
さらに促進していくにあたり、どのような課題やハードルを
感じていますか。（複数回答）



テックタッチ株式会社
大企業のAIエージェント活用に関する実態調査
(n=429)

今後のAIエージェント
活用における課題、
第1位「社内にAI活用
に関する知識や
ノウハウが不足
している」

今後の課題やハードルについて、
「社内にAI活用に関する知識や
ノウハウが不足している」が
35.4%、「既存システムや
ツールとの連携が難しい」が
33.1%、「AIの専門知識を持つ
人材の確保が難しい」が30.5%
という回答となりました。

今後の活用促進には、
知識不足とシステム連携が壁と
感じているようです。

まとめ

今回は、生成AIを業務で活用している大企業(従業員数1,000名以上)の会社員429名を対象に、大企業のAIエージェント活用に関する実態調査を実施しました。

- AIエージェントの認知度は89.0%、業務での活用経験は81.9%。特に「データ分析・レポート作成」での活用が最多(57.2%)。
- 活用による効果と課題感として、90.2%が「自身のパフォーマンスが向上した」と実感する一方、約9割が「機密情報リスク」「回答精度」「指示の難しさ」などの課題を感じている結果に。
- 自由回答に見られた追加課題として、依存によるスキル低下、コストパフォーマンスの測定困難、法整備の未成熟など、新たな懸念も浮上。

まず、大企業における「AIエージェント」の認知度は89.0%で、実際に活用している企業は81.9%にのぼり、「データ分析・レポート作成」などを中心に利用が進んでいることが明らかになりました。

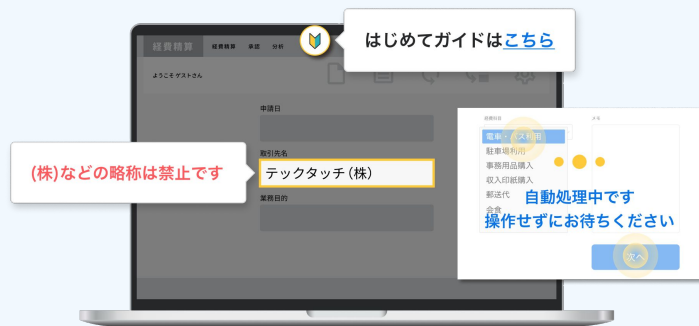
一方で、約9割が「正確性への不満」「機密情報や個人情報の取り扱いが不安」といった課題を9割が実感しており、今後は業務フローに即した導入設計や、セキュリティを考慮した情報管理体制の整備が求められます。

テックタッチの2つの事業

国内シェアNo.1 次世代AI型DAP 「テックタッチ」

DX・AIとユーザーのラストワンマイルを支援

「テックタッチ」は、操作ガイドをシステム上に表示することで、誰もが迷わずにシステムを操作できる環境を提供します。また、システム導線上に設置可能なAIを活用することで、従業員のAI利活用を促進します。

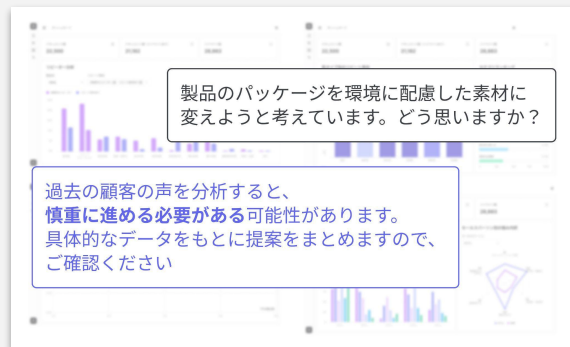


お問い合わせ

データ戦略AIエージェント 「AI Central Voice」

埋もれたデータが、戦略のヒントに。

「AI Central Voice」は、顧客の声・ログ、従業員エンゲージメント、商談記録など、あらゆる定性データを構造化し、課題を可視化。対話形式※でアイデア出しをサポートし、経営の意思決定に役立つ新たな洞察の発見を促進します。



お問い合わせ

※2025年リリース予定



テックタッチ株式会社

ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。
担当スタッフが詳しくご説明いたします。

[お問い合わせ](#)

[会社概要](#)